

《どうでもいい話、その 518》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！

久しぶりに本家岩波書店版「新四字熟語辞典」をお送りします。「最近の下ネタが少ない」との苦情が多く寄せられますので、たまには・・

「桜宴合戦」（おうえんがっせん）・・・首相主催の「桜を見る会」を私物化している問題で、与党・野党が戦いをくりひろげること

「先生攻撃」（せんせいこうげき）・・・4人の先生がひとりの先生に激辛カレーを目に入れたりするなどして いじめること

「入額試験」（にゅうがくしけん）・・・大学に入るためには、自分の身の丈に合わせて試験を受けるように、という格言

「千葉徹夜」（ちばてつや）・・・千葉県知事は台風が発生した際、自宅などに帰らず庁舎にて徹夜で備えるように、ということから

「首里滅裂」（しゅりめつれつ）・・・沖縄の首里城が火災にあい、めちゃくちゃになってしまったこと

「性交口説」（せいこうくどく）・・・セックスをしながら口説くことで、セックスの上手な人が用いることば

「上衣下立」（じょういかたつ）・・・性交口説の対義語で、セックスのヘタな人があせって衣服を着たまますること

岩波より

《どうでもいい話、その 519》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！

最近、植物園また大きな公園などに行くと、写生をしている人とか写真撮っている人を多く見受けます。絵道具は豪華で、カメラは大きな最新型ですが、それを使用している人の年齢は中古です。この前も公園の池で数人が並んでカメラをスタンドにつけおしゃべりをしています。なにをしているのかと思ったら、鳥が来たらあわてて一斉にカメラを構えていました。多分野鳥の会の人たちだと思いますが、鳥はすぐに飛んでいきました。なかには“鳥を撮り逃がした”人がいたようです。その池の横には写生している人がいて、どんな絵を描いているのか覗いてみたところ、実際の情景と異なります。まだ紅葉していないのに絵は紅葉していて、またその日は雲ひとつないよい天気なのに絵には雲があります。これは実景と違い“絵セ”です。私は絵とか写真のアートはよく分かりませんが、絵画、また被写体が裸の女性の場合はよく分かります。

岩波より